

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学年グループで探求的な学習の進め方や評価の在り方等について協議を行ったことで、全員が主体性をもって授業改善に取り組むことができた。家庭学習の定着が不十分な児童生徒もいるので、家庭学習の重要性を保護者にも啓発し、家庭学習の充実に継続して取り組む必要がある。 ・職員による朝の講話や外部講師を招聘しての講話など、多様な考え方や生き方について学ぶ機会を設けたことで、発達段階に応じて児童生徒が夢や目標をもつことができた。しかし、職業について視野を広げるためには、町内だけでは限界があるため、今後も様々な体験を積み重ねる機会を設けていきたい。 ・特別支援教育に関する研修を実施するとともに、本年度より各月に特別支援教育委員会を開催したことで、支援が必要な児童生徒への対応について理解を深めることができた。児童生徒のよりよい支援のために、今後も適宜ケース会議を開き、共通理解を図った上で具体的な支援を行っていきたい。 ・「時間外在校等時間の上限を意識して改善に努めている」と肯定的な回答をした職員は、約98%であった。定時退勤日や部活動がない日には早く退勤するなど上限以内の時間で勤務する職員が増えてきているので、時間外在校等時間をさらに縮減できるよう、今後も業務改善に努めたい。
2 学校教育目標	みらいをつくる ～切り拓き、リードする～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性の深化と発展を目指した義務教育9年間の学びの充実（ふるさとを誇りに思う気持ちを育む教育の充実、海洋教育の更なる充実、海外との交流） ・特別支援教育の推進と校内支援体制の充実 ・組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・「書く」「話す」など、自分の考えを伝え合う学習の充実と家庭学習の習慣化	○児童生徒によるアンケートで「自分の考えを伝える(書く)ことができた」に肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ○家庭学習の各学年の目安時間を達成している児童生徒が75%以上	・授業中、児童生徒が必然的に書いたり、話したりする授業づくりを行う。 ・「家庭学習の手引き」や「学習リズムチェック表」を配布し、家庭学習に対する保護者の意識を高める。 ・「みらい子トーク」によって、各教科のペア、グループ活動の型に慣れ、自尊感情をもち、活発なグループ活動になるよう取り組む。 ・1人1台端末を活用し、活用率で県平均を上回る。							・学力向上コーディネーター ・研究主任 ・学習部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○前期課程の縦割り活動を年6回行い、異学年との交流を図る。 ○縦割り班での奉仕活動や集会を行う。 ○人権集会を年7回行う。 ○後期課程で、代表委員主導の学級会を年3回以上実施する。 ○校内でのボランティア活動を年に3回程度行う。	・前期課程児童による縦割り活動を行う。 ・縦割り班で1年生を迎える会、縦割り遊び、仲良くなるう集会を行う。 ・人権集会の実施や授業を通して人権・同和教育を行い、学校全体で指導にあたる。 ・生徒主体の学級会を行い、学級間で合意形成を図る過程を通して、他者への思いやりや社会性を身に付けられるよう指導にあたる。 ・暑中見舞い・年賀状作成など、地域に根差したボランティア活動を行う。 ・ICTを活用し、生徒会や委員会活動の質の向上を図る。							・特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめに気づき、注意したり、先生に知らせたりできる」という肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○いじめの発生時に組織的な対応ができると肯定的な回答をした職員90%以上	・毎月末の生活アンケートを活用する。 ・発生したいじめ事案をその日のうちに共有できるように、生徒指導部が中心となり、管理職の指示のもと全職員と連携を図る。							・生徒指導主事 ・生活指導主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・「人権集会」を通じ、児童の発達段階にあわせて人権意識を高め、多様な考え方や生き方について学ぶ。(前期) ・学校行事の中で「出番」「役割」「承認」を実施することで、自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を高める。 ◎外部講師を招き、将来の夢や日頃の取組について話を聞くことで将来の自分について考える時間をとる。その一つとして、サガン夢先生を招き、夢をもち努力することの大切さを伝え、継続する力を育む。							・学習部 ・道徳主任
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上200分以上(1日30分程度)の児童60%以上、生徒70%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上	・昼休みには体育館や運動場の使用割合を決めて開放する。 ・部活動への積極的な参加を呼び掛ける。(後期) ・朝食喫食や残菜ゼロを呼び掛ける。 ・給食たよりを発行し、保護者への啓発を図る。 ・給食時間の指導や授業などで、食に関する指導を実施する。 ・スポーツチャレンジへの積極的な参加を促す。(前期) ・校内持久走大会を実施し、体育の時間に運動場を走り、持久的なわたりの推進を呼び掛ける。(前期)							・体育主任 ・学校栄養職員
	○各競技の専門家を講師として招き、指導を通じて運動の楽しさを味わわせるようにする。	○(学校独自成果指標・任意)児童生徒によるアンケートで「運動が好き」「運動が楽しい」に肯定的に回答する児童の割合が80%以上	・バスケットボール(Bリーグ)、サッカー(Jリーグ)、タグラグビー、リズムトレーニング等のゲストティーチャーを招き、体を動かす楽しさを体験させる。							・体育主任 ・学校栄養職員
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「時間外在校等時間の上限を意識して改善に努めている」と回答する職員の割合90%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数1.4日以上	・定時退勤日及び部活動休業日を設定し、履行する。 ・業務改善を視野に入れてデータを整理することにより、業務の効率化を図る。 ・業務記録(年次休暇取得日数を含む)を確認し、意識の向上と業務の効率化に取り組む。							・管理職
●特別支援教育の充実	○児童生徒一人ひとりの理解や個に応じた指導・支援の工夫・改善	○児童生徒一人ひとりの実態把握と理解をめざし、一か月に1回、全職員による情報共有の場を設ける。 ○特別支援の視点を取り入れた全職員対象の研修を年に2回行う。	・年度初めや学校行事の前など、適切な時期に要理解児童生徒について情報交換の場を設けたり、ケース会議を開いたりしてよりよい支援につなげる。必要に応じて、教育相談担当や支援員との情報交換も行う。 ・ICTを活用し、それぞれの児童生徒に合った学習への取り組み方について共通理解を図る。							・特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域を生かした学びの充実	○学方向上に向けた海洋教育の取組	○海洋に関する知識量や認識に差容がみられる。 ○持続可能な社会の実現に向けて、自分の生き方について考えをもつ児童生徒を90%以上。	・「めざす児童生徒像」や本学園が考える「学力」を職員および児童生徒が共有し、指導と評価の一体化を図っていく。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---